

## 中学校部会

- 【南部ブロック】9月27日（火）
- 【西部ブロック】9月28日（水）
- 【北部ブロック】10月4日（火）
- 【東部ブロック】10月7日（金）

1

## 道徳教育の全体計画

### 道徳教育が充実しない背景として考えられること

- 教育活動全体で行う道徳教育は、何を指して行うか(目標設定)は、**学校が独自**に考える必要がある。
- 道徳教育の目標に向けて、どの内容を重点的に行うのか(重点内容項目)を**学校が独自**で決めなければならない。
- 重点内容項目を指導する機会や時期などその**計画**を**学校が独自**で作成しなければならない。
- **道徳科**の授業の年間35単位時間に、どのような内容を充てて指導するのかを**学校が独自**で決めなければならない。

### 道徳教育を充実させるためには

#### カリキュラム・マネジメント

学校が主体的に子供や地域の実態など様々な事項を的確に把握して、**育てたい子供像**を明確にして目標を設定し、計画を立てて、教職員が**共通理解**、**共通実践**できるようにする

校長の  
リーダーシップ



学校の  
組織力





各教科等	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
道徳の時間										
教科	国 語									
	社 会									
	数 学									
	理 科									
	音 楽									
	美 術									
	保健体育									
	技術・家庭									
	外国語									
総合的な学習の時間										

## 道徳教育の全体計画の意義

道徳教育の全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、**学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策**を総合的に示した教育計画である。

## 道徳教育の全体計画を確認する際のポイント

### ○学校教育目標と重点目標の確認

道徳科の年間計画などを見直す際、各学校における教育活動の柱となるのが**学校教育目標**であり、道徳教育においては道徳教育の重点目標である。

※「学校学習指導要領」第1章第6の2 に示されている指導内容の重点化についても留意してください。

## 特別活動との関わり

特別活動における学級や学校生活における集団生活や体験的な活動は、**日常生活における道徳的実践の指導を行う重要な機会と場**であり、特別活動が道徳教育に果たす役割は極めて大きいものがあります。

現下の状況を踏まえれば、また、学校という空間が果たす役割を考えるならば、特別活動の意義は一層重要となっており、感染症対策を講じた上で生徒や学校の実態に応じて創意工夫して実施するなかで、**道徳教育としての役割をこれまで以上に教職員間で共有することが重要です。**

# 道徳科の年間指導計画

## 道徳科の年間指導計画の扱いについて

○ 小・中学校学習指導要領(平成29年告示) 第3章第3の「指導計画の作成と内容の取扱い」において、道徳科の年間指導計画を作成するに当たって「第2に示す各学年段階の内容項目について、相当する各学年において全て取り上げることとする。」とされていることを踏まえ、学校の授業で**全ての内容項目を取り上げる**ことが求められる。その上で、どの内容項目を授業でより重点的に指導するののかについて、各学校で十分に検討し、判断することが重要である。

### 年間指導計画の内容項目の配当時間数の例

重点内容項目 (B礼儀 C規則の尊重)

視点	内容項目	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
A	真理の探究	1	1	1	1	1	1
	親切、思いやり	2	2	2	2	2	2
B	感謝	2	1	1	1	1	2
	◆礼儀	3	2	3	2	3	2
	友情、信頼	2	2	1	2	1	2
	相互理解、寛容	1	1	1	2	2	2
C	◆規則の尊重	3	3	3	3	3	3
D	◆生命の尊さ	3	3	3	3	3	3
	合計	34	35	35	35	35	35

### 年間指導計画の主題配列の工夫の例

重点内容項目 (B礼儀 C規則の尊重)

学期	月	週	回	主題名	内容項目	教材名 (教科書以外の出典)	備考
1 学期	4 月	1	1	1日の始まり	B 礼儀	〇〇〇〇〇	
		2	2	安全な生活	A 節度、節制	〇〇〇〇〇	
		3	3	きまりは何のために	C 規則の尊重	〇〇〇〇〇	
	5 月	1	4	権利と義務	C 規則の尊重	〇〇〇〇〇 (〇県 郷土資料集)	
		2	5	自他の生命の尊重	D 生命の尊さ	〇〇〇〇〇 (「私たちの道徳」文科省)	
		3	6	まごころの形	B 礼儀	〇〇〇〇〇	
		4	7	長所と短所	A 個性の伸長	〇〇〇〇〇	

## 補助教材使用時の留意点

・教科用図書以外の教材を選定する場合には、児童生徒の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであり、多様な見方や考え方で深く考えることができるものなど、児童生徒の道徳性を養うという観点から考えて、**より大きな効果を期待できる**という判断を前提として検討することが重要である。

・補助教材を使用することにより、指導する内容項目に漏れがないかを確認する必要がある。

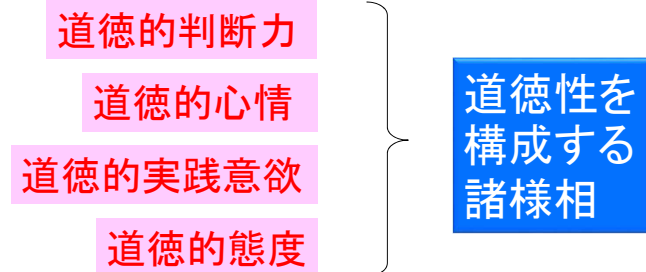
## 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

「小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳」

## 道徳科の授業とは？

学校教育の道徳教育における道徳性の捉え方



一人一人の児童(生徒)が道徳的価値を自覚し、自己の(人間としての)生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況で、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような**内面的資質**

## 道徳科の授業とはどんなもの？

小学校1年生から中学校3年生までの義務教育の9年間で、AからDの22の内容項目を手掛かりとして、継続的に道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることで道徳性を養い、よりよい生き方ができる子供を育てる。

21

## 内容項目とは？

道徳科の内容について、学習指導要領第3章の「第2 内容」では、次のように示した上で、各項目を示しています。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要である道徳科においては、以下に示す項目について扱う。

道徳科を要とする道徳教育における学習において基本となるもの

22

### 内容

中

#### A 主として自分自身に関すること

[自主、自律、自由と責任][節度、節制][向上心、個性の伸長][希望と勇気、克己と強い意志][真理の探究、創造]

#### B 主として人との関わりに関すること

[思いやり、感謝][礼儀][友情、信頼][相互理解、寛容]

#### C 主として集団や社会との関わりに関すること

[遵法精神、公德心][公正、公平、社会正義][社会参画、公共の精神][勤労][家族愛、家庭生活の充実][よりよい学校生活、集団生活の充実][郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度][我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度][国際理解、国際親善]

#### D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

[生命尊重][自然愛護][感動、畏敬の念][よりよく生きる喜び]

23

## 内容項目を手掛かりとして

- 自己を見つめる
- 物事を広い視野から多面的・多角的に考える
- 人間としての生き方についての考えを深める

24

## 教材の活用について

道徳科の授業は、  
教材から学ぶこともできるが、  
教材を理解させることに終始せず、  
**教材を活用して**  
**生き方を学ぶ時間である。**

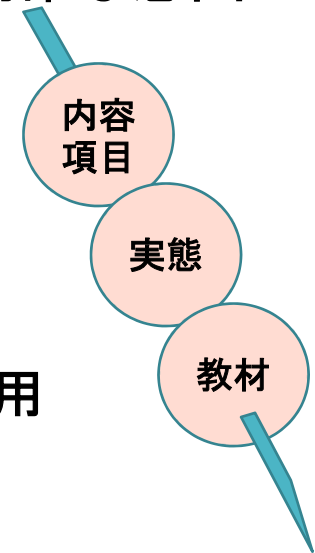
25

## 教師の指導の明確な意図

内容項目の理解

子どもの実態把握

教材の効果的な活用



26

## 道徳科の学習指導案

学習指導案は、児童生徒や学級実態に即して、教師自身の創意工夫を生かして作成する指導計画です。具体的には、**ねらいを達成するために、道徳科の特質を生かして**、何を、どのような順序、方法で指導し、評価し、さらに主題に関連する本時以外の指導にどのように生かすのかなど、**学習指導の構想**を一定の形式に表現したものです。

27

## 道徳科の学習指導案

したがって、その形式に決まった基準はなく、多様なものが考えられますが、一般的には、次のような事項が取り上げられています。

- (ア) 主題名
- (イ) ねらいと教材
- (ウ) 主題設定の理由
- (エ) 学習指導過程
- (オ) その他

28

第○学年 道徳科学習指導案

平成○年○月○日○校時  
 ○○○学校○年○組○名  
 指導者 ○○ ○○ 印

1 主題名 ※ ねらいと教材で構成した主題を端的に表したものを記述する。

内容項目番号	内容項目を文章表記する。
--------	--------------

2 主題設定の理由

<ねらいとする価値について>

※ ねらいや指導内容についての教師の考え方を記述する。「学習指導要領解説 道徳編」を参考に、発達段階を踏まえるようにする。

<児童生徒の実態について>

※ ねらいとする価値と関連する児童生徒の実態と教師の願いを記述する。

<教材について>

※ 使用する教材の特質や取り上げた意図及び児童生徒の実態と関わらせて指導の方策などを記述する。

3 ねらい ※ ねらいとする道徳性の内容や観点を端的に表したものを記述する。  
 ※ 指導の意図に合わせて、「心情を育てる」「実践意欲を高める」「態度を養う」などのように文末を使い分けて記述する。

4 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の意識	指導上の留意点
(例)			
導入	1 自分たちの学校のことについて話し合う。	○学校の紹介をしたら、どのようなことを紹介しますか。 ・挨拶がいっぱい为学校だ。	○学校のよさに気付かせ、ねらいとする価値への導入を図る。

5 評価の観点 ※ ねらいに照らして、学習したことの成果を評価する観点などを記述する。

## ○ 主題設定の理由

### (1) ねらいとする道徳的価値について

教師が1時間で指導する主題に含まれる道徳的価値をどのように理解しているか、生徒に対してねらいとする道徳的価値をどのように考えさせ学ばせるかを示す。

### ポイント

・ねらいとする道徳的価値が、学習指導要領を根拠として示されているか。

(それぞれの内容については、解説に具体的に示されている。)

- ・教師の主観的・独善的な記述になっていないか。
- ・他の道徳的価値を混同した記述になっていないか。

### (2) 生徒の実態について

別様等も参考に、この授業でねらいとする道徳的価値にかかわる指導の内容や実態を記述する。

### ポイント

・ねらいとする道徳的価値にかかわる児童生徒の状況を示す。

※一般的な行動の様子を記述するのではない。

・児童生徒の問題傾向の列挙に終始しない。

プラス面、マイナス面を調和的に示す。

・性別などにより、問題傾向の特徴を決めつけるような記述にしない。

### (3) 教材について(教材名「                    」, 出典:                    )

教材のあらすじだけでなく、教材の活用の仕方、使い方、教材を通して、どのようなことを学ばせたいかも記述する。教材を活用して、どのようにねらいに迫っていくかを書く。



## ○ ねらい

(例) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする 心情を育てる。

道徳的価値(内容項目) 道徳性の様相

## ポイント

- ・複数の道徳的価値をねらいとして構成しない。
- ・文末は、その時間の指導の重点が道徳的判断力の側面にあるのか、心情の側面にあるのか、あるいは、実践意欲と態度の側面にあるのかを明確にする。

これにより、授業展開が方向付けされる。

33

## 道徳科の学習指導過程

特に決められた形式はないが、一般的には、**導入**、**展開**、**終末**の各段階を設定することが広く行われている。

35

## (例)

規則の意義について理解し、規則を大切に生活していこうとする心情を育てる。

主題名 きまりの意義  
規則の遵守 など

(例) よりよい学校生活、集団生活の充実  
自分の属する集団の意義を理解し、互いに規律を守り、協力し合って集団生活の充実に努めようとする態度を育てる。

34

## 道徳科の学習指導過程

### 導入

主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる**動機付けを図る段階**

- ・本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入
- ・教材の内容に興味や関心をもたせる導入

36

## 道徳科の学習指導過程

### 展開

ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階

・児童生徒がどのような問題意識をもち、どのようなことを中心にして自分との関わりで考えを深めていくのかについて主題が明瞭になった学習を心掛ける。

37

## 道徳科の学習指導過程

### 終末

ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

- ・学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる
- ・学んだことを更に深く心にとどめる
- ・これからの思いや課題について考える

38